

令和7年度 学校努力点全体計画

1 テーマ

主体的に学び続ける子の育成 ～協働的な学びを通して～

2 ねらい

本校では、昨年度から学校努力点として、様々な教科等の学習の中で、自由進度学習を取り入れた実践を行ってきた。昨年度の成果として、自由進度学習を通して、児童それぞれが自分に合ったペースや方法を選び、意欲的に学ぶことができたことが挙げられる。自分で学習課題を決め、計画を立てて、学習に臨むスタイルが児童に浸透し、熱心に取り組む姿が多く見られた。授業の最後には振り返りを行い、その振り返りを次の学習に生かして取り組む姿も見られた。このようなことから、「主体的に学び続ける子」に一步近づくことができたという手応えを感じている。

一方で、課題として、他者と関わる場面が少ないことが挙げられた。意見交流をする場面において、仲良しの友達以外と進んで関わろうとしなかったり、一人で学ぶことを選んだ児童が他者とほとんど関わりをもたずに学習を進めていたりしたことなどが挙げられた。「主体的に学び続ける」ためには、様々な人と関わり、多様な考えがあることを知ることで、自分の学びを広げたり深めたりすることも大切な要素であると考え。 「ナゴヤ学びのコンパス」でも述べられているように、自分に合った学び方を選び、学習を進める中で、必要に応じて仲間や大人の力を借りたり、多様な人と学び合ったりすることのよさを味わわせ、「主体的に学び続ける」姿をさらに育てていきたいと考える。

そこで今年度は、自由進度学習の中で、児童が様々な人と関わるができるような手立てを工夫し、「協働的な学び」を実践していきたい。

低学年：必要に応じて仲間や大人の力を借りることができる。

中学年：様々な人と進んで関わりながら、学ぶことができる。

高学年：「協働的な学び」を通して、自分の学びを広げたり深めたりすることができる。

3 研究の進め方

- (1) 各学級で児童の実態を把握する。4月中に事前アンケート、最終報告会の前までに2回目のアンケートを実施し、最終報告会の資料とする。
- (2) 各学年で、目指す子ども像と、それに迫るための手立てを検討し設定する。
- (3) 実践は、前期・後期の2回行う。公開授業は、1人1回行う。公開する日の前、公開授業後各部会で事前・事後検討をしっかりと行う。
- (4) 「努力点だより」や「ADgram」(相原努力点 gram)で、実践内容や児童の実態を保護者に伝える。「ADgram」は簡潔にまとめ、実践後一週間以内にメール配信する。
- (5) 1月に最終報告会を開く。
- (7) 授業参観で自由進度学習の授業を年間で1回は行う。
- (6) 鳴海小学校の授業の参観や、情報交換会を行う。

4 研究の手立て

- (1) 単元内において2～3時間の自由進度学習を取り入れ、児童が2～3時間の学習計画を立てたり、1時間の授業内で取り組む課題を設定したり、自分に合った方法を選んだりして、課題解決や内容把握をする取り組みを行う。
- (2) 自由進度学習全体の学習計画を児童が考える。
- (3) 1時間の終わりに、振り返りを行う。(ルーブリック表、振り返りシート等)
- (4) 前時の振り返りを基に、全体の学習計画の修正をし、本時の課題を設定する。
- (5) 協働的な学びができるような手立てを設定する。